

られる認知症。認知症は旭川医大入局後から三十年以上取り組んで、日本老年精神医学会の専門医・指導医資格を取得しました。

藤井 私の母はアルツハイマー型認知症ですが、その母と一緒にいることの多かつた娘は、以前から変調に気付いていました…。

直江 認知症も早期発見・治療が重要です。薬やリハビリなどご本人の負担が少なくなるし、自分の意思を伝えられる「猶予期間」ができますから。いかに早く発見するかが専門医の目標です。将来を見据え、その患者さんに必要な医療と福祉に結びつけるのが役割といえるでしょう。

●熱しやすく冷めやすいので多趣味

藤井 ご趣味は釣り、格闘技、ゴルフにワイン…。随分多岐にわたっていますね。

直江 熱しやすく冷めやすいんです(笑)。一番最初の趣味は釣り。父の影響で始めて、道内はあらゆるところに行きました。なかでも宗谷の大岬沖で釣った七十センチを超えるクロソイは自慢です。

次が三十台半ばから始めた空手。四、五年で二段をとってパタリとやめました。組み手で口を切ったことがあります。そのときは妻(直江綾子)に縫合してもらいました。

藤井 奥様は外科医ですか？

直江 今は当院(旭川圭泉会病院)で精神科医として勤務していますが、もともとは旭川医大第一外科(血管外科)の出身です。女性では最初の入局者だったそうです。結婚後、子どもができてから精神科に転科しました。その次がゴルフ。せっかちな人間にはだめですね。なかなか上達しないのでやめました。

現在進行形なのはワイン。イタリアのワイン産地・パローロで見た一面に広がるブドウ畑は圧巻でした。今、はまりつつあるのがオペラ。フランスのオペラ座で聞いて感激した

のがきつかけです。いつかはミラノのスカラ座で本場のオペラに触れてみたいものです。だから来たるべきときに備え、時間を見つけてはフランス



ミラノのスカラ座に行くのが夢
(写真はフランス・オペラ座)

ス語とイタリア語を勉強中です？

藤井 奥様とのデートはワインの飲み歩き？

直江 時々飲みに行きます。時間が取れば一緒に海外旅行へ出かけたいですね。

藤井 もし医師になつていなければ？

直江 漁師ですね。

藤井 なんとなく分かります(笑)。休日の過ごし方は？

直江 時間の許す限り読書しています。最近佐伯泰英の時代小説に没頭。密命シリーズや吉原裏同心シリーズなどたくさんありますが、姿勢も変えずに朝から晩まで読みふけています。同じものを繰り返し読むものだから、流れはもちろん台詞まで暗記してしまいました。熱しやすく冷めやすいからそろそろあきるかな(笑)。

●冷静に『常識』を見つめ直す

藤井 最近気になることはありますか？

直江 環境問題などで画一的な考え方をしている日本人が多いことです。マスコミの影響もありますが、反対の意思表示がしづらい社会になっていて。常識とされていることも、よく考えてみるとそうじゃないということが結構あります。今一度冷静に論理的に物事を考えてみる必要があるではないでしょうか。

インタビューを終えて

自然体で直球な生き方

常任理事

藤井美穂

好きな言葉は「自然体」。まさに先生のイメージ通り。奥様が出張などで不在のときには、おさんのお弁当も作られたそうです。「それくらいは当然。普段は妻が僕を手助けしてくれているから」と笑いながらおっしゃる先生に感激しました。「納得させられるだけの理由がなければ、自論は譲らない」という直球的なスタイルが大変新鮮でした。

●患者さんの中で育った少年時代

藤井 先生は血色の良いお顔をされていますね。

直江 高血圧なんです。医師会の仕事を始めてからは尚のこと（笑）。顔が赤いのは薬（アダラート）の影響。飲酒してませんよ（笑）。

藤井 先生のご出身はどちらですか？

直江 札幌生まれです。父親（直江善男）が道立向陽ヶ丘病院の初代院長でしたから網走にいたこともありませう。

藤井 小さなころから元気いっぱいいらっしやっただけでしょう？

直江 幼稚園のころです。網走橋の欄干の外側



生年月日 昭和25年12月16日
出生地 札幌市
出身大学 兵庫医科大学 昭和53年卒
精神科・神経科
好きな言葉 自然体



大岬沖で釣った70cm 超のクロソイは剥製にして飾ってある

に、橋に平行して通っていたパイプの上を歩いて、気づいたときには足がすくんでしまい動けなくなることが忘れられません。それから高所恐怖症で…。観覧車もだめ。下が見られないんです。だから京都の清水寺のようなところは壁伝いに恐る恐る…。

藤井 高いところがだめとは意外。先生の弱点ですね（笑）。

先生が精神科を選ばれたのは、やはりお父様の影響ですか？

直江 母親の腕一つで育てられた父は、金銭的に迷惑をかけないようにと、働きながら旧制旭川中学の定時制に入学。そして学費の安かった



平成4年、和道流空手2段を取得

●認知症の早期発見・治療が
専門医の目標

満州の新京医科大学に進み、昭和十九年に卒業。北大の精神科に入学し、諏訪望教授に師事しました。その後は精神科医療の道一筋。父の姿に影響も受けていたでしょうが、私は患者さんに育てられたようなものですから、彼らに対する違和感などは初めからありませんでした。精神科がごく身近なものでした。

藤井 時代とともに病態は変化していますが、精神科領域ではいかがでしょうか？

直江 症状が軽症化しているように思います。また人格障害の患者さんが多くなりました。それと平均寿命が延びたことも背景の一つと考え